

## 日本鉄鋼協会記事

### 編 集 委 員 会

**第 1 回和文会誌分科会** 開催日: 3月4日. 出席者: 長島主査, ほか 16 名.

1. 18件の論文審査報告がなされ, 修正依頼 3 件, 掲載決定 14 件であった.
2. 「鉄と鋼」第 63 年第 8 号 (7月号) に, 論文 14 件, 技術資料 1 件, 掲載決定した.

**第 1 回欧文会誌分科会** 開催日: 3月8日. 出席者: 橋口主査, ほか 9 名.

1. 11件の論文につき審査報告がなされ掲載可 4 件, 照会后掲載可 4 件, 修正依頼 3 件であった.
2. 「鉄と鋼」63 年 3 号より Review 1 件, 63 年 7 号アブストラクトより 4 件の研究論文, 及び他の国内誌より 1 件の研究論文につき, 投稿を勧誘することとなった.

### 共 同 研 究 会

#### 鋼 管 部 会

**第 20 回継目無鋼管分科会** 開催日: 3月3日~4日  
出席者: 小滝主査, ほか 36 名.

第 1 日目 熱間押出関係

- (1) 設備保全について
- (1) 押出管の長手方向の寸法に関する実態調査と要因解析 (継続)
- (3) 工場操業状況報告

第 2 日目 マンネスマン関係

- (1) 要因配置とその作業内容について
- (2) 加熱炉からサイザーまでの各機製造能率について
- (3) 工場操業状況報告

**第 20 回溶接鋼管分科会** 開催日: 3月10日~11日.

出席者: 大日方達一, ほか 45 名.

第 1 日目 電縫・鍛接管関係

- (1) 要員について
- (2) 鍛接鋼管の曲りにについて
- (3) 工場操業状況について

第 2 日目 アーク溶接管関係

- (1) 成形機について
- (2) プレスについて
- (3) 工場操業状況について

.....

#### 計 測 部 会

**第 65 回部会**

開催日: 2月24日~25日. 出席者: 宮崎部会長, ほか 127 名.

1. 講演「高炉操業における計測について」と題し, 製鉄部会村上氏より高炉炉内ガス流分布を中心に講演していただいた.

2. 共通議題「連鑄に関する計測」第 64 回部会での

製鋼部会からの講演に応えるべく, 5 件の発表があった.

3. 一般研究発表 発表件数は 14 件と少なかつたが討論内容が充実しており時間が不足した. 最近NDIに関する発表が特に興味的となつている.

4. 工場見学 (株)島津製作所・三条工場を見学した.

5. 次回開催について 7月に住金・製鋼所で開催する予定である.

### 鉄鋼基礎共同研究会

#### 特 殊 精 錬 部 会

**第 8 回第 2 分科会** 開催日: 2月28日. 出席者: 相山主査, ほか 10 名.

1. ESR鋼塊, 鋼材の欠陥事例集の原稿について検討し, 字句の変更, 統一を行つた. 6月ごろに刊行する予定で作業を進めることとした.

2. 今後の活動方針についてESRの数学モデルの文献を参考として検討を行つた結果, 今後, 実操業の数学モデル化について研究してゆくこととなった.

3. 今後の研究活動を容易にするために, ESRについての用語の統一作業を次回以後行うこととした.

**第 9 回第 3 分科会** 開催日: 2月15日. 出席者: 郡司主査, ほか 13 名.

下記の 5 テーマについて発表が行われ, 討論がなされた.

(1) 大型 ESR 鋼塊中の酸化物系介在物の分布と凝固速度ならびに方向との関係. (鈴木委員)

(2) ESR のフラック組成・量及びインゴット寸法と被熔製鋼塊の酸素含有量. (多田委員)

(3) スラッグスキン厚さと総括熱伝達係数について. (近藤委員)

(4) ESR インゴットの凝固過程の解析. (梅田委員)

(5) 合金のデンドライトアーム間隔について. (岡本委員)

**第 7 回第 4 分科会** 開催日: 2月1日. 出席者: 後藤部会長, 荻野主査, ほか 17 名.

1. 研究発表

(1) ESR 用フラックスの電気伝導度の測定

(荻野・原・橋本: 阪大工)

(2) CaO-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 系スラッグと溶鉄間の界面張力への溶鉄中酸素の影響 (荻野・原・三輪: 阪大工)

(3) CaF<sub>2</sub> 含有スラッグ-溶鉄間の界面張力 (川合: 九大)

(4) 熔融 CaF<sub>2</sub>, MgF<sub>2</sub> の密度 (白石: 東北大選研)

(5) CaF<sub>2</sub>-CaO-SiO<sub>2</sub> 系融体への SiF<sub>4</sub>(g) 吸収, 発生反応について (新明・植松: 北大)

(6) SUS 321 ステンレス鋼のエレクトロスラッグ溶解-合金元素の挙動について (荻野・原: 阪大)

以上の発表があり活発に討論された.

**第 8 回第 5 分科会** 開催日: 12月14日. 出席者: 小林

主査, ほか 15 名.

1. 特殊精錬部会第2回幹事会報告

9月14日 ESRシンポジウム開催について, 各分科会から代表的研究発表を行なうこととした.

2. 委員発表

(1) ESW, 溶着金属の元素分布に及ぼすフラックス組成の影響について(第1報) (阪大・岩本)

(2) 鋼板製溶接構造大形水車ランナの製作(日立・和田)

(3) エレクトロスラグ溶接およびエレクトロスラグ肉盛とその効果的な適用例(新日鉄・大谷)

以上3件の発表があり活発に討論された.

3. その他

ESWに対する心線およびフラックスの分類と溶接金属の試験ガイドについての質問が Dr. J. ZEKE から来たので, JIWX II, J分科会主査が日本の意見をまとめて返答書を送った. この返答書の内容について中野氏

(川鉄)より説明があつた.

鉄鋼の応力腐食割れ部会

第8回部会 開催日: 1月19日. 出席者: 久松部会長  
ほか 15 名.

1. 委員発表

(1) 304 ステンレス鋼の水素吸収と水素脆化におよぼすカソード・チャージ条件の影響(川鉄・増尾)

(2) Application of Resistmetry to Stress Corrosion Cracking Test. (東工大・春山)

2. Review

ステンレス鋼の孔食とすきま腐食(久松部会長)

以上の発表があり活発に討論された.

3. その他

昭和52年度から新規委員が追加されるが, その案が部会長から紹介された.

## 特殊精錬法文献集の有償頒布について

鉄鋼基礎共同研究会, 特殊精錬部会の一つである第6分科会では ESRにとどまらず, ひろく特殊精錬すなわち取鍋精錬や特殊溶解に関する情報の収集を担当しております. このような情報活動の成果をひろく関係者の参考にしていただくため, ESR法に関しては, すでに ESR文献集第1集, 第2集としてその成果を刊行して参りましたが, 特殊精錬法に関しても ESRの場合に準じて調査をおこない, その成果をここに特殊精錬法文献集第1集として刊行することにいたしました.

対象とした特殊精錬法は, たんなる脱ガス法, スラグ処理法などを除いた溶鋼の取鍋精錬法(VOD, AOD, ASEA-SKF法など)および特殊溶解法(VIM, VAR, EBM, EBR, PAM, PAR法など)であり, 各プロセスの設備, 操業技術, 応用技術ならびに基礎研究結果などを網羅しております. 本文献集第1集は主として1960年以降の国際会議, シンポジウム, 学協会誌および専門誌に発表された論文ならびに資料について, 図, 表, 写真などにより内容を分類し, 雑誌別, プロセス別に整理編集してあります. なお本文献集に集録しました件数は欧文579件, 和文195件の合計774件であります. 本文献集を広く皆様方に御利用いただくため下記要領で頒布することになりましたので, ここに会員の皆様にお知らせ致します.

### 記

1. 頒布価格 2,000 円

2. 申込方法 書名, 部数, 送付先を明記のうえ代金を添えて現金書留にてお申込み下さい.

3. 申込先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階

日本鉄鋼協会技術部 山本由己 Tel. 03-279-6021